



7
2021

発行所
大阪市中央区玉造2-24-22
カトリック大阪大司教区
広報委員会
郵便番号 540-0004
TEL (06) 6941-9700(代表)
TEL (06) 6946-3223(直通)
FAX (06) 6946-3224(直通)
E-mail: jho@osaka.catholic.jp
編集 広報委員会
発行人 前田万葉

本紙
「点訳版」「音訳」
あります。〈無料〉
※ご希望の場合は
下記まで申込み
「点訳版(点字本)」
時報 ☎06-6946-3223(直通)
[06-6946-3224(直通)]
「音訳(テープ・デジ)」
山口さん ☎0798-34-4228

☆ 続「コロナと宗教」インタビュー (2画)
☆ 2021年ロック小教司牧担当一覽 (3画)
☆ ラジオ「信仰の時間」 (4画)
☆ ジョヴァンニ・デリア神父 (4画)
☆ 司牧者から若者たちにこの一冊 (5画)
☆ イエスにならう生き方を求めて (6画)
☆ ユスト高山右近の生涯と信仰 (9画)
☆ 「生きる」―難民移住者 (7画)
は禁断へのメールアドレス: jho@osaka.catholic.jp

『時報』原稿・
資料等の締切は
前々月末です。



うメッセージだった。どんなピンチにあっても神様が共にいてくださる、イエスが共にいてくださるので必ず乗り越えられるというメッセージを分かち合い、伝えてほしい。

新型コロナウイルス感染症が発生してから一年半以上が経過した。この間、世界は感染拡大との戦いに翻弄されてきた。日本も同じように、何度も襲ってくるコロナ感染の波に、緊急事態宣言などで対応してきた。そのような状況のもと、カトリック大阪大司教区として、コロナ禍にどのように対応してきたかを、今年5月、教区長トマス・アクイナス前田万葉大司教にインタビューした。同時に、大阪教区にある他宗教(神道、仏教)のコロナ禍への対応を聞いた。どのよう向き合ってきたか、その相違点や共通点を、大阪教区としての対応を振り返る参考にしたい。コロナ禍にあつて発見したポジティブな面を見て、希望へとつなげてゆきたい。

前田万葉大司教インタビュー 結びつきを深めるチャンスに

+

昨年、コロナ感染拡大時の大阪教区の対応は？

前田 感染症拡大にともなう「国からの注意喚起、大阪教区の位置する大阪府、兵庫県、和歌山県の行政が出している様々な情報をもとに、教区としての対応をまとめた」「新型コロナウイルス感染症にともなう措置」(以下、「措置」)を状況が変わるたびに出してきた(6月現在、第12次まで発表)。そして、「措置」に基づいて各教会で対応するようにしてきた。

さらに、ローマ教皇庁、典礼秘跡省や内教院からの通達などを背景に、聖週間の典礼、公開ミサ、行事についても通達を出してきた。感謝の典礼(ミサ)は、カトリック教会の典礼の源泉であり頂点であるが、人が集まることで感染が拡大することが問題になり、これまでのような形態でミサを続けることが困難になっ

た。そのため会衆が集まる公開ミサを中止せざるを得ないと判断し、通達した(※左下の「公開ミサ・非公開ミサ」参照)。

司祭団には、非公開ミサをささげること奨励し、信徒のために非公開ミサをオンライン配信することも勧めてきた。

当初は、公開ミサをすることができないで各教会で意見が分かれたことがあった。また、司祭による非公開ミサを見た信徒が誤解し、ミサは中止なのに司祭がミサをしているとの苦情を受けたこともある。それに対しては、非公開ミサの意味を説明した。

また、口に聖体を受ける人への対応をどうするか、司祭がマスクせずミサをしているとか、聖体拝領時、手を消毒しないなど様々な質問や苦情が教区に寄せられた。それらに対して説明したり司祭への指導を行ったりした。そのような対応に迫られた時期もあった。

公開ミサ・非公開ミサ 【ローマ・ミサ典礼書の総則】

緊急事態宣言下で、大阪教区は「措置」によって、会衆の集まる「公開ミサ」を中止しました。これは、人の流れを止めることで感染の広がりを止めることが命を守るために必要と判断したからです。しかし、司祭には神の民である教会共同体のために秘跡、とりわけ感謝の祭儀であるミサを挙げる義務があります。そこで、会衆のいない「非公開ミサ」を行うことになりました。

ミサは、『ローマ・ミサ典礼書の総則』に基づいてささげられています。『総則』の第4章「ミサの種々の形式」の中に、「公開ミサ」や「非公開ミサ」の説明があります。「公開ミサ」は、「会衆の参加するミサ」にあたるでしょう。115項に、「会衆の参加するミサとは、信者の参加を得て祝われるミサをいう」とあり、主日と守るべき祝日には、会衆が参加するミサがふさわしいとされています。

「非公開ミサ」の説明は、「ただ一人の奉仕者が参加するミサ」の項にあると考えられます。このミサの形式は、「ただ一人の奉仕者が司祭を助け、司祭に答えて行われるミサ(252項)」とされています。続いて、「奉仕者あるいは少なくとも幾人かの信者がいない祭儀は、正当な理にかなう理由がない限り行わないものとする(254項)」とあります。これが「非公開ミサ」と呼ばれるミサを指しているものと考えられます。コロナ感染拡大防止が、「正当な理にかなう理由」とされたのです。このようなミサでは、「あいさつと勧めの言葉とミサの終わりの祝福は省かれる」とあります。こうしてみると、非公開ミサであっても一人以上の奉仕者が参加していることが望ましいと思われま

小教区へ出かけられることも多いと思うが？

前田 堅信式などで小教区を訪問する際、車で送迎していただくことがあり、非常に助かった。感謝したい。堅信式ミサでは、担当の司牧者とも相談し、万全な感染対策を実施してきた。

昨年の聖週間と復活祭、クリスマス、聖霊降臨などの大きな祝いのミサは、教区長としてのメッセージを伝えるためにネット配信するようにした。ただ、ミサ動画配信が恒

今年の時報1月号に発表した新年のメッセージで、「ウィズコロナピンチはチャンス去年今年」と詠んだ。プラス思考で、ピンチはチャンスと考えて、コロナ禍を乗り越えようとい

か？

前田 コロナは世界にとつて、人類にとつて大きな災害であるが、人を傷つけない、思いやることの大切さを世界中の人が感じている。私は、全人類が結びつきを深めるチャンスだととらえている。

今年の時報1月号に発表した新年のメッセージで、「ウィズコロナピンチはチャンス去年今年」と詠んだ。プラス思考で、ピンチはチャンスと考えて、コロナ禍を乗り越えようとい

今年の時報1月号に発表した新年のメッセージで、「ウィズコロナピンチはチャンス去年今年」と詠んだ。プラス思考で、ピンチはチャンスと考えて、コロナ禍を乗り越えようとい

次ページに続く